

# いわき民報

社報民さわい 日曜日除く毎日発行 電話一三三三番 郵政掛元 郵政掛元 郵政掛元

14日から上映  
恋の十日間  
集楽館

## 民主婦人連が 強力な側面運動展開 全官公労組共同スト支持

石城民主婦人連盟委員会は十二日午前十時から平市四丁目マルトモホールに三十名以上の役員が参加して開催目下強力に闘争展開中の官公廳労組共同ストに賛同し婦人連も看過することは許されぬ、この闘争はあくまでわれわれ婦人の闘争でもあり、この闘争を全力をあげて極めて有力な側面的支持運動を展開することに決定、ついでこれが具体的方法等について慎重検討の結果先づ第一段として来る二十三日上遠野村を皮切りに二十四日入遠野村等順次全郡下各地で農村婦人をかこんでの座談会を開くことになったが、この婦人連の活動には大きな期待をかけられている

## 銀座街親和會發足

### きょう石川亭で盛大に發會式

商店界の明細化は銀座街から、前京大教授戸田正三氏を招いて十九日午後二時から平市公會堂で常務委員の猪狩君が、十市目通り通りの銀座街では五十余日本間に、健康な文化的な生活の商店を一元として親和會をの最低基準と題する講演會を、時間には炭礦の現状を國民に訴ふ復活結成、十四日午後一時から開く、ついで三時半から有志をこめて座談会を開催す

## 最後の猛運動

### 小名濱港の運命を賭けて

小名濱町では猛運動中の同港修築問題が、二十二年年度豫算六百萬元が運輸省で五百萬元に削減された大減額に回付され、これが否定は十四日行はれるとの報に、是が非でも通過せしめ目的の達成を期すべく長瀬助役、立花、長瀬正副議長、樋口町長は十三日土曜、縣から伊藤土木部長の上京を得て縣と協力最後の猛運動を各關係方面に貫つて展開した

## 衣料品無償配給

### 悩む引揚者にうれしい息消

平地區統制組合では引案を練ることになった、右に對揚者の越冬物資として、江名町側は地元如何にか、地區内全引揚者に左記はらさ一切を引受けて創立すべ

5・609點の  
平六五九點、内郷五〇七點、草野一六六點、神谷三六六點、夏井三四點、高久三七七點、飯野五〇點、好間二五二點、永戸箕輪五三點、澤渡三三三點、赤井一二二點、小川二八二點、計一九二五點

## 凱歌は新人佐藤君へ

### 市連青主催復活カルタ大會

十二日午後一時から公會堂日本間で行はれた市連青年會主催の復活カルタ大會は往年の郡内チャンピオン根本重部君や好間谷六六、夏井六六、高久六六、飯野一〇〇、好間五二二、永戸箕輪一三三、澤渡六六、赤井二六六、小川五五五、計四〇六六

## 磐城連合治療師會

### 赤外線、指壓療法等その他各種療法の免許

療養法等その他各種療法の免許者二十余名が一丸となりこの種の療養法を普及せしめ、市民の健康増進に努むることを目的として、磐城連合治療師會を組織し、赤外線、指壓療法、按摩療法、氣功療法、針灸療法、小針療法、小名濱町南鐵道株式會社の株式募集は、不漁から地元の大衆に大きな影響を及ぼしてゐる、創立委員會を、

## 本月末頃に 創立總會

### 磐南臨鐵十五日 最後の委員會

磐南臨鐵十五日、最後の委員會を開催し、磐南臨鐵株式會社の株式募集は、不漁から地元の大衆に大きな影響を及ぼしてゐる、創立委員會を、

## 産婦人科 齊藤醫院

平市南町五七 電話九〇二番

## 比佐三郎氏

平市田町末廣旅館主比佐三郎氏は、平市中の病狀悪化、四月午後八時死亡した。享年四十六才氏は、商第三回卒業生で現商友會會長を兼ね、その死を惜しまれてゐる。葬儀は十六日午後一時自宅出棺、五等馬場とき(田川)六等吉田良善寺で営む。

## 列車一部緩和

1/3日からの平野線は従來通りである

常磐線下り	常磐線上り
時刻	時刻
0.30 平野	3.55 上野
5.55 平野	5.34 湯本
7.40 平野	7.43 湯本
9.40 平野	9.46 湯本
11.40 平野	11.40 湯本
13.40 平野	13.40 湯本
15.40 平野	15.20 湯本
17.40 平野	16.49 湯本
19.40 平野	18.30 湯本

## いわき市言

市内田町銀座街親和會の復活、華々しく發足する、市民の明細化をはかる上からも、心からの發展を祈る、市連青の復活カルタ會幾多強豪を退けて新人佐藤君優勝、新入の挨拶は凡ゆる方面から歓迎すべし

## 郷土藝術コンクール

日時と場 一月十九日(日)民衆劇場 夜六時

目的 海外引揚者、戦災者等其生活困難者に対する援護資金造成並に郷土藝術の啓蒙

應募先 平市役所社會課内同胞援護會平市支會

締切日 一月十七日

種目 他、歌謡、民謡、舞踊、神樂、萬才、浪曲等種目を問はず(但し演劇を除く)

出場種目は二種目、歌謡、舞踊は六分以内其他は三十分以内とする

應募の際は出演種目、内容、所要時間、出演者氏名、人数等必記のこと

賞金 同胞援護賞五百圓(一名)

一等三百圓(一名)二等二百圓(一名)三等百圓(一名)四等五十圓(十名)

會員券 前賣八圓、當日賣十圓

主催 恩賜財團同胞援護會福島縣支部

後援 平市支會、平市役所、いわき民報社

## 電話開設御知らせ

### 小名濱局電話三二四番

食粉 魚粉 製パン 製麵  
飼料 肥料 線香 各種  
電気製鹽 漬物 一式

工場 皆川食品工業所  
所長 皆川太丸  
石城郡江名町大字下神白字細取  
小名濱造船會社先埋立地

## 夫三郎儀

豫而病氣中の處、石効無く一月四日午後八時水喉仕候間生前の御厚誼を深謝し此段謹告仕候

昭和二十二年一月十二日  
平市用町二九  
妻 比佐トシ  
親戚一同 比佐賢司

## 小名濱局電話三二四番

食粉 魚粉 製パン 製麵  
飼料 肥料 線香 各種  
電気製鹽 漬物 一式

工場 皆川食品工業所  
所長 皆川太丸  
石城郡江名町大字下神白字細取  
小名濱造船會社先埋立地

# マル炭よ！何處へ行く

## 重大視される廢止の成行

マル炭よ何處へ行く、從來炭礦り又々石炭廳の意向で特掲炭の通り  
の資材關係の入手に唯一の方法も廢止される事になつたが  
であつたベーター制のマル炭は果たして之からどうなるか、七  
送炭の一、五乃至二、〇%で行日に於ける方部別増炭割當協  
はれて居たが、九州方面の一部會に於ても、増産の事付として  
船船等に依る大量積流しを理由資材の確保がない限りベーター  
に舊冬十一月の特掲炭として常制を最高限度に許用されなくて  
警地方には五千噸を割當てられは勞務者も採炭能力も飽和点に  
之に依り各礦別に割當されたは達してゐる現状を打開する道は  
が之で行くと各礦一、五%割當でない、と強調されて居りマル炭  
で實際に資材獲得に動いてゐる制度の成行は注目されてゐる  
量は四、〇%を必要とし一月と

# 供米完遂九ヶ町村

十三日現在で六五パーセント

郡下の供米は十三日現在で六五  
%に達しついで完遂町村は川前  
川部、永戸箕輪、澤渡三阪、湯  
本、田人、勿來、小名濱、山田  
の九ヶ町村に達した、今一息で  
完遂を見る町村は泉、錦、上遠  
野、鹿島、磐崎の五ヶ町村で進  
んでいるところの二十%程に達  
して居るところの二十ヶ村に達  
間、好間、赤井、大浦、小川の  
五ヶ村が目立っている

# 原料供出に 還元配給

調味料の緩和と原料供出促進を  
ねらつてみよ、醤油統制會社で  
は今年から四月までの間主食品  
百%供出町村に限り原料供出し  
たものに對し調味料を左の割合  
で還元配給する

- 大豆五升 → 醤油四升 (みそ一貫五百匁) → 玄小麥五升
- 同(同) → 玄大麥五升
- 二升四合(一貫) → 玄米五升
- 一升(三貫) → 鹽一貫
- 二升(一貫目)

# 讓度

新品電蓄(姓名在社)

# 立憲養正會 演說會日割

立憲養正會縣支部では本部幹  
事長江南富三郎氏を迎へて十二  
日内郷町内町官の兩國民校で開  
いたのを皮切りに左記日割で政  
談演說會を開く、講師演題左の  
通り

# 京染部新設

京屋染工場

# 遊興飲食税 何と四十六萬余圓

入場税も三十二萬圓を突破

平稅務署管内十二月  
の遊興飲食稅總額は四  
十六萬五千五百圓で平市の稅高  
は二十四萬圓を占めた、うち  
藝妓の花代に五萬二千六百圓に  
達した、又同月中における入場  
稅總額は卅二萬六千七百四十一  
圓、麻雀、撞球稅三萬五千六十  
二圓で計三十三萬三千三百圓を占  
めてゐる

# 農業會方部會

農業會石城支部では左記日割で  
支部會を開く  
十三日錦町、十四日泉村、  
十六日平市、十七日飯野村

## 國定忠治

14日から世界館

東寶作品

小國英雄と菊田「夫の作、瀧村昭男の製作で齋藤寅次郎の演出カメラは立花幹也、たゞしもなく笑はせる新喜劇のお笑ひ映畫

【配役】 國定 忠治 神田 伯龍

## 女店員募集

小名濱のうきよ

新年宴會に御利用下さい

## 美人女給

カマ

至急入用

上原時計店

## 青柿會旬會

渡邊何鳴選

大竹すばる

板制淺太郎 廣澤 虎造 阿茶公と元通り仲よくなつて旅  
日光 圓藏 杉浦エフスケに出る。所がヒョクなことから  
三津木文藏 千歳家今、男辰公は國定忠治と間違はれ、十  
中山精一郎 川田 義雄  
捕り手 ミルク  
ブラザーズ  
御室の勘助 横山 運平  
勘太郎 會我の家藏  
辰 横山エスタツ  
阿茶公 花菱アチャコ  
百姓佐兵衛 森野銀治哉  
娘 お光 笠原 英子  
山形屋藤藏 高勢 實乘  
その息子 若宮金太郎  
おまん 神田 千鶴子  
清水 頑鐵 山田 長正  
目明し英藏 進藤英太郎

上州赤城山に立こもつた一世の俠客國定忠治軍は、代官中山精一郎の率いる討伐軍と激戦最中である。忠治の乾分の板制淺太郎は代官方の御室の勘助を救父に持つてゐる爲、忠治から忠誠を疑はれ、遂に勘助を斬つて歸り、その足で山お下りた。忠治の乾分辰公と、中山軍の捕り手阿茶公は、竹馬の友であつたが今は敵味方、然しお互ひに陣地を抜け出しては眼をつぶしてゐた。やがて、忠治は山を下り、草薙を履いて旅に出ることになつた。乾分も各々解散し、辰公もからからと干切干の干あがれる

總會を開くこと全教組の闘争は關係者の最努力によつて解決されることを切望するがゆゑに、保護者の誠意ある見解を教員諸君に披瀝して全面的應援をするがやむなくストに入つたときは全父兄が情願し得る學童の公明なる處置を懇談すべきことなど會員側の意見として力説したのであつたが會長の努力にも拘はらず、十八日の四倉町會に於ては保護者の熱意が全く無視されてしまつたのである

手を預る身をよいに近郷の百姓を苦しめてゐた山形屋藤藏を苦しめることになつた。その英雄ぶりに胸をときめかしたのが百姓佐兵衛の娘お光。事件は事件を生み、笑ひは笑ひを呼ぶが遂には忠治一黨と共に辰公はお繩を受け、涙で見送るお光と再會を約して曳かれて行つた。繩を取るのが阿茶公とせめての友情であつた

永山 仁一 肩まろく切干刻む老の母  
切干を干あげて年の暮むかふ  
二片 歌仙  
眞白な切干屋根の月夜かな  
古むしろ切干白くひろげらる  
古田部義雄  
ちりちりと切干かはきはじめけり  
荒川 朝子  
切干のほせし句ひの鼻をつく  
古田部素子  
鶏追ふて切干むしろひろげり  
河原 元子  
切干の吹かれちらばる風あり  
二片 正昭  
切干の句ひたゞよう朝朝かな  
古田部胤政  
切干のむしろ日向にはこぼる  
二片 康夫  
切干のむしろたいむも孫相手

總會を開くこと全教組の闘争は關係者の最努力によつて解決されることを切望するがゆゑに、保護者の誠意ある見解を教員諸君に披瀝して全面的應援をするがやむなくストに入つたときは全父兄が情願し得る學童の公明なる處置を懇談すべきことなど會員側の意見として力説したのであつたが會長の努力にも拘はらず、十八日の四倉町會に於ては保護者の熱意が全く無視されてしまつたのである

總會を開くこと全教組の闘争は關係者の最努力によつて解決されることを切望するがゆゑに、保護者の誠意ある見解を教員諸君に披瀝して全面的應援をするがやむなくストに入つたときは全父兄が情願し得る學童の公明なる處置を懇談すべきことなど會員側の意見として力説したのであつたが會長の努力にも拘はらず、十八日の四倉町會に於ては保護者の熱意が全く無視されてしまつたのである

總會を開くこと全教組の闘争は關係者の最努力によつて解決されることを切望するがゆゑに、保護者の誠意ある見解を教員諸君に披瀝して全面的應援をするがやむなくストに入つたときは全父兄が情願し得る學童の公明なる處置を懇談すべきことなど會員側の意見として力説したのであつたが會長の努力にも拘はらず、十八日の四倉町會に於ては保護者の熱意が全く無視されてしまつたのである

總會を開くこと全教組の闘争は關係者の最努力によつて解決されることを切望するがゆゑに、保護者の誠意ある見解を教員諸君に披瀝して全面的應援をするがやむなくストに入つたときは全父兄が情願し得る學童の公明なる處置を懇談すべきことなど會員側の意見として力説したのであつたが會長の努力にも拘はらず、十八日の四倉町會に於ては保護者の熱意が全く無視されてしまつたのである

## カフェー 末廣

小名濱町横町

## 眼鏡 玉屋

定指眼科各

目丁二市平 番〇一九話電設新

## 山吉商店

平市四丁目電二六八番

## 女店員募集

新年宴會...

是非御利用下さい